

老年学とは？  
Successful aging(幸福な老い)  
の条件を明らかにする学問

## 老年学から考える 地元の「子ども」「学校」がもつ意味



(公財)ダイヤ高齢社会研究財団  
澤岡詩野

# キーワード① 「ゆるやか」に地域と関わる

横浜市在住の一般高齢者を対象にしたアンケート調査から地域との関わりの代名詞でもある「町内会・自治会活動」

## ■町会・自治会活動への参加状況は

「月数回以上」11.9%

「年に数回程度」28.8%

「参加していない」59.3%

## ■活動に「全く参加していない人」より

**「年に数回程度でも参加している人」の方が**

「定住意識」, 「非常時の助け合い」, 「ふだんの支えあい」

といった地域に対する意識が高い

「年に数回程度」の参加とは、お祭りや催し、防災訓練  
ここから深く関わってもらう事は難しい...

でも、少しでも「ゆるやか」に関わって貰える人を増やす  
ことが大事

高齢者=お荷物,  
弱者という偏見  
への反証

## キーワード② ちよつとの「プロダクティブ」

### プロダクティブ・エイジング(生産的な老い)

- アメリカの老年学バトラー博士が提唱
- 人は最期まで、様々な「プロダクティブ・アクティビティ(生産的活動)」に寄与する存在
- 生産的活動とは、支払いがある以外に、  
**支払いのない、ボランティアや家事  
家族の介護などの無償労働**も含む

	抑うつ傾向		自尊感情	
	男性	女性	男性	女性
有償労働	↓↓			↑↑
ボランティア活動	↓		↑	↑↑
家庭内無償労働	↓			↑

出典) Sugihara, et al. (2007)、杉原 (2005)

猛者をイメージして  
自分にはできない  
と踏み出さない人  
が増えている  
知識経験を誰かに  
シェアすることも  
「プロダクティブ」

# キーワード③

## 30年後の地域を変える「ジェネラティビティ」

でも1人では不安...  
近すぎない地元と同質性の  
高い仲間が欲しい...  
(青葉区の学習支援者養成  
講座には地域に出てこない  
男性達がわんさか！)

講座終了後に活躍できる  
場が欲しい...  
シニアには先生じゃないから  
の良さがある！  
子どもがふらっと気軽に立ち  
寄れる常設の寺子屋の様な  
居場所がない？

子どもから生きがいを貰い、  
気が付けば「挨拶」できる人  
が地域のそこかしこに。  
他の課題も気になりはじめる

「知識」や「経験」を活かして  
次世代を育てる  
地域活動、子育て支援には  
抵抗感。  
でも「子どもの学習支援」  
なら生産的だし自慢できる  
、自分でもできるかも？

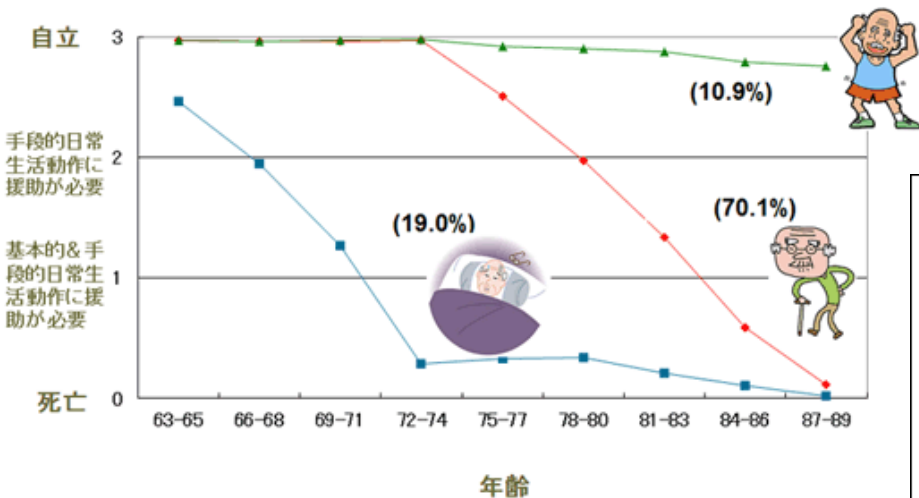


15年後、通ってきた子ども  
達が大人になり、お世話に  
なっていたシニアを助ける  
ことに  
→次世代へ価値や文化を  
生み出しつなぐことに

# キーワード④ 身近な「地元」だから気軽に長く続けられる

自立度の変化パターン  
—全国高齢者20年の追跡調査—

男性

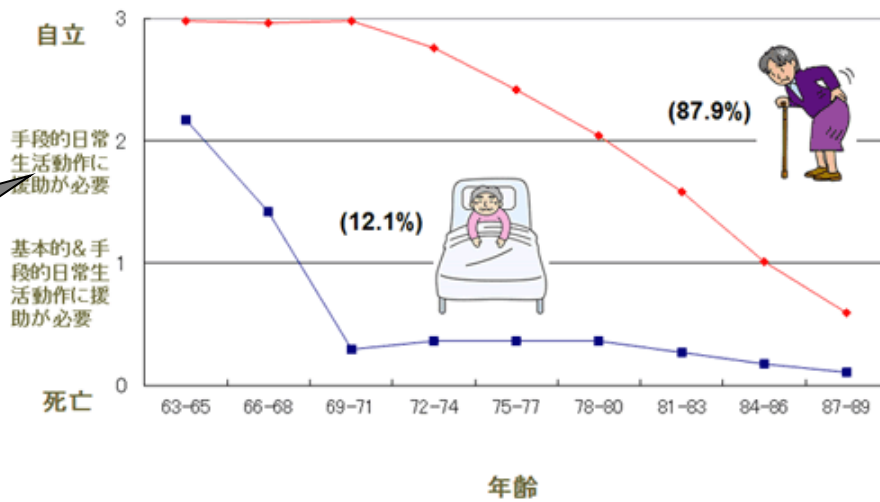


出典) 秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想『科学』岩波書店, 2010

元気といっても50代の頃とは違う気力と体力  
「近い」=「関わりやすさ」  
にもつながる

自立度の変化パターン  
—全国高齢者20年の追跡調査—

女性



出典) 秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想『科学』岩波書店, 2010

男性の7割, 女性の9割が  
70歳頃から「虚弱化」  
外出が徒歩・自転車圏,  
『地元』に

# 人生100年を豊かにするのは 3つ目の「居場所」！

「The Great Good Place」(1989 Ray Oldenburg)

第一「家」および第二「学校・職場」の重要性は、全ての国・都市で十分に認識されており、整備も進んでいる。

第三の居場所の必要性とあり方は国によって大きな差がある。アメリカは西欧の歴史ある都市と比べ、第三の居場所が劣っており、これがアメリカの都市の魅力の弱点。

第一の居場所「家庭」 親，兄弟・姉妹，配偶者，子どもなど

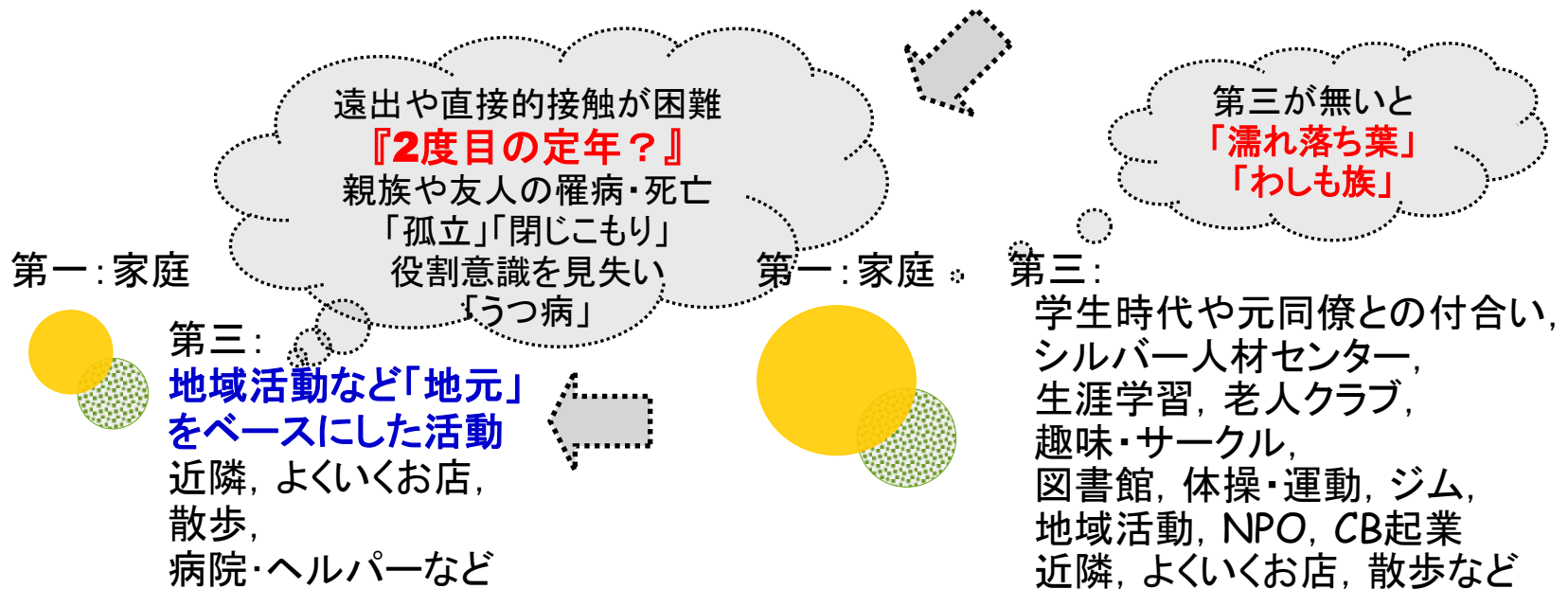
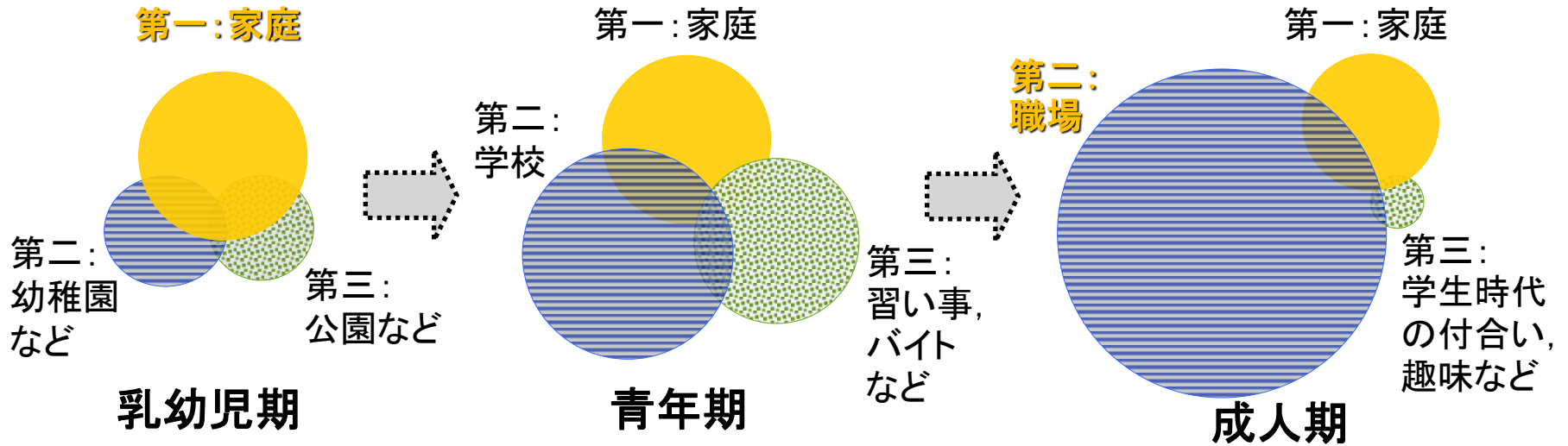
第二の居場所「学校，職場」 同級生，同僚，上司，部下など

第三の居場所「趣味，社会活動」 友人，仲間，知り合いなど

「プロダクティブ」で「ジェネラティビティ」の生まれる「第三の居場所」を「地元」にも持つ事が重要  
→企業退職者を中心に、居場所を見いだせず、家に閉じこもる人が増えている



# 「居場所」の移り変り: 企業退職者



後期高齢期: 身体機能低下

前期高齢期: 自立

# 地域参加, ボランティア・貢献と言うけれど, 少しばかり「重過ぎる」…?

- 地域参加, ボランティア・貢献などと言われると重い
  - ➔ 特に**団塊世代以降の価値観**は「ゆるやか」で「マイペース」,  
「自慢できる(社会的意義がわかりやすい)」ことも動機に
- 子育て支援, ジェネラティビティを否定するシニアはいないが,  
「自分にはできない」「きっかけが掴めない」人が少なくない
  - ➔ 子育て経験, 教育歴はマストではなく, 「**生きてきた経験**」  
**が特技**になる
- 意識すべきは「徒歩圏・自転車圏」
  - ➔ 身近な「地元」だから**気軽に長く続けられる**  
終の棲家でもある地元が元気になれば**自分もハッピー**

- ・ 既に地域で活躍しているシニアは手一杯…
- ・ 新たなシニアを巻き込む為に求められるのは?
- ➔ 「地元」で自慢できて, ゆるやかに「プロダクティブ」かつ  
「ジェネラティビティ」の生まれる「居場所」  
身近な小中学校や学童クラブ等は魅力的な「居場所」  
でも少し敷居が高く, シニアが入る為には仕掛けが必要